

横浜国立大学キャンパスにおけるカーシェアリング・ステーション空間 のデザイン提案と実証実験の実施

横浜国立大学 COI サテライト（代表：中村文彦（理事・副学長））では、本サテライトに参画する Y-GSA（研究代表者：藤原徹平（准教授））主導のもと、横浜国立大学キャンパス内に一時的に設置されているカーシェアリング用車両の駐車場において、多様な活動を促進し得る、付加価値化されたステーション空間（東屋状の車両乗降空間）のデザインを提案するとともに、その実証実験（以下、「本実験」）を実施いたしました。本実験は、文部科学省の「センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム」として採択された、本学の「交通対応型 ICT プラットフォームに基づく都市のリデザイン拠点」研究の一環として、本サテライトが本学キャンパスにおいて先行実施しているカーシェアリングの実証実験と連動しながら行われるものです。これらの実験を通して、交通拠点としてのみならず地域の交流拠点ともなる交通結節空間（ハブ空間）の提案と実装を目指します。

●概要

期間：2016 年 12 月 8 日(木) ～ 2016 年 12 月 22 日(木)

場所：横浜国立大学構内（横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5）（図 1）

実施主体：横浜国立大学 COI サテライト・Y-GSA

責任者：中村文彦（横浜国立大学 理事・副学長、同大学 COI サテライト長）、
藤原徹平（横浜国立大学・准教授）

●目的、内容と結果、期待される効果

本実験は、本学キャンパス内において先行実施されているカーシェアリング実験用の共有車両設置場所周辺に、車両乗降の前後および、屋外で行い得る諸活動を促すようデザインされた、ステーション空間を設置することで、カーシェアリングの利用者、および車両設置場所周辺の生活者（学内の教職員・学生、周辺地域からの来訪者）の活動・意識の変容について検討することを目的としています。横浜国立大学キャンパスは、交通アクセスに課題のある郊外の住宅地および大規模事業所のモデルと位置付けられますが、この条件のもと、上述の検討を行うことで、大都市郊外の住宅地・事業所におけるハブ空間の提案と社会実装につなげることがねらいです。

本実験で提案・設置するステーション空間は、10 m²以下の面積の小さな仮設物で、屋根、ベンチ、カウンター、荷物置場等により構成されます（図 2）。この空間を設けることで、共有車両利用者による同乗者との待ち合わせ、トランクの荷物の出し入れ等の活動および、周辺の生活者による一時的な滞留や飲食等の活動を促進することを企図しております。実験期間中に実施した、コーヒーの配布イベントでは、多数の教職員・学生が集まり、車両設置場所を人々の交流拠点とし得る本ステーション空間の効果の一端を実証しました（図 2）。さらに、現地の通行人（教職員・学生、地域住民）に対して行ったアンケートでは、駐車場をこのような空間として設えることで、場所のイメージが向上することが示されました。

このように、通常では駐車場の一面において車両のみが設置されるカーシェアリングの乗降空間を、車両乗降以外の多様な活動を促すよう設え、地域社会の交流拠点として位置づけた本実験は、都市交通空間のデザイン手法として極めて独創的で、先進的な試みあるといえます。また、こうした試みを通して交通空間のイメージ向上と、多様な人々による交流の契機の創出が期待されます。



図 1 ステーション空間の設置場所



図 2 ステーション空間外観

※本実験の WEB サイト

http://coi-tms.ynu.ac.jp/YNU_CarShare/carshare_html/carshare_about_hub.html

本件に関する問い合わせ

（担当）吉本（よしもと）憲生（のりお）（横浜国立大学 産学連携研究員）

電話：045-339-4076

Email：yoshimoto-norio-fm@ynu.ac.jp